

平成30年度全国学力・学習状況調査について

1 はじめに

小学校6年、中学校3年生及び学校を対象として4月17日(火)に実施しました。本年度の調査は、小中学校とも理科が加わりました。

- ・国語A、算数・数学A(主として知識に関する出題)
- ・国語B、算数・数学B(主として活用に関する出題)
- ・理科(主として知識に関する出題、活用に関する出題の双方)
- ・児童生徒質問紙(生活、学習を中心に選択肢で回答する質問)
- ・学校質問紙(学校の実態、指導等について選択肢で回答する質問)

で構成されています。この調査結果について、分析し、今後努力することや保護者や地域の皆様と一緒に取り組むことについてまとめました。



2 調査の概要

(1) 学力調査の問題数

小学校6年	国語A	国語B	算数A	算数B	理科
問題数	12	8	14	10	16
中学校3年	国語A	国語B	数学A	数学B	理科
問題数	32	9	36	14	27

(2) 児童生徒質問紙

児童の日常の学校や家での勉強や生活について、「当てはまる」、「どちらかといえば当てはまる」、「どちらかといえば当てはまらない」「当てはまらない」を選択して回答する質問で、小学校62項目・中学校59項目です。

[小学校例]

- ・自分には、よいところがあると思いますか。
- ・将来の夢や目標を持っていますか。
- ・地域社会などでボランティアに参加したことがありますか。

(3) 学校質問紙

学校の指導方法に関する取組や学校における人的・物的な実態や指導に関する質問で小学校84項目、中学校81項目です。

[例]

- ・児童生徒数、教職員数、教員の経験年数、経験年数などの基本調査
- ・模擬授業や事例研究など、実践的な校内研修を行っているか。

- ・学習状況調査の分析結果を中学校と共有しているか。
- ・授業の最後に振り返る時間を設けて指導しているか。
- ・職場見学や職場体験を行っているか。

3 児童生徒質問紙について

(1) 地域とのかかわり

「地域のよさ、地域の人のよさ、地域に暮らすよさ」を学ぶために積極的に地域から学ぶ活動を推奨しています。

- ① 今住んでいる地域の行事に参加していますか。
  - ② 地域社会などでボランティア活動に参加したことがありますか。
- の2項目について、「参加している」と回答した割合について一覧表にしました。どの学校も国の平均よりはるかに高く、町や地域が学校と一緒に子どもを育てる努力をしていることが結果にあらわれています。値があまり高くない学校でも、既に朝の除草ボランティアなど、校内での取組を工夫をしていますので、その活動の値打ちを説明し、褒めていくことが大切です。

国のポイント	国(小)	郡(小)		国(中)	郡(中)	
① 地域行事への参加	35.9	56.2	+20.3	18.6	35.4	+17
② ボランティアの体験	36.1	61.9	+26	51.8	84.9	+33

(2) 理科の学習について

本年度理科の調査が行われました。体験的な活動や体験を基にして考える力の育成を願っていますが、「している」と回答している児童生徒の数が増加している。

	国のポイント	国(小)	郡(小)		国(中)	郡(中)	
①	理科室での実験・観察の授業、週1回以上の実施	41.2	63.4	+22.2	40.7	85.4	+44.7
②	観察や実験をもとに考察しているか	43.6	47.4	+3.8	31.7	51.0	+19.3

(3) 「先生は児童生徒のよいところを認めてくれているか」[あなたは将来の夢や目標をもっているか]の回答について

「先生はよいところ認めてくれているか」の平均値は小中とも国の平均値を上回りました。「将来の夢や目標をもっているか」については小学校は国の値を上回り、中学校はポイントを上げました。

小学校			中学校	
国のポイント	29年度	30年度	29年度	30年度
① 先生はあなたのよいところを認めてくれていると思いますか	郡 42.8 国 47.3 -5	郡 47.9 国 42.5 5.4	郡 38.4 国 34.5 +3.9	郡 41.8 国 32.5 +9.3
② 将来の夢や目標をもっていますか	郡67.1 国70.0 -2.9	郡71.6 国68.2 3.4	郡38.9 国45.3 -6.4	郡40.8 国45.3 -5.3

4 学力学習状況調査について(全問正解を100とした場合の平均正答率)

(1) 全国、県と羽島郡の比較(郡欄の○印: 国平均と比較して2ポイント以内の差)

小学校	全国	岐阜県	羽島郡	中学校	全国	岐阜県	羽島郡
国A	70.7	72	○	国語A	76.1	76	○
国語B	54.7	56	○	国語B	61.2	62	○
算数A	63.5	63	○	数学A	66.1	67	○
算数B	51.5	51	○	数学B	46.9	49	○
理科	60.3	61	○	理科	66.1	68	○

全国と比較してほぼ上下約2ポイント以内におさまり、全国平均です。学校の根気強い努力が成果となって現れています。

(2) 問題と正答率

- ① 国語、算数・数学、理科の基礎的な問題の正答率で平均値が国の平均値と差が5ポイント以上あったのは以下の問題であり、大半の問題は上下5ポイント以内におさまっている。飛びぬけてポイントが高いとか低い領域は見当たらない。

(小学校問題)	問題	国平均	郡平均	差
	製造の製の字が正しく使える	73.4	67.7	-5.7
	文の中で漢字を使う。(積極的「積」を書く)	51.4	58.9	7.5
	針金 0.4mで 60gの針金 1mの重さを求める	66.7	74.3	7.6
	二つのシートにのる人の込み具合を調べる	50.1	45.1	-5.0
	180° よりも大きい角度を求める	58.5	52.6	-5.9
	円の直径の長さが2倍になったとき円周は何倍に?	55.6	61.9	6.3
	折れ線グラフから変化の特徴を読み取る	63.6	55.5	-8.1
	食塩を水に溶かしたときの全体の重さを選ぶ	42.7	37.2	-5.5

(中学校問題)	問	題	国平均	郡平均	差
	「ひとえに」ということばにあう適切な語句を選択する		65.4	59.7	-5.7
	「とほさざるなし」の現代仮名遣いで書く		63.0	55.4	-7.6
	絶対値が6である数字を書く		69.0	60.6	-8.4
	数量を選び、連立方程式を立式する		75.2	69.8	-5.4
	半円の直径を軸として回転させてできる立体の名称		82.4	70.3	-12.1
	点(-2,3)の位置を座標平面上に表す		69.9	75.4	5.5
	歩いた道のりと残りの道のりの関係を選ぶ		36.4	46.5	10.1
	資料から中央値を選ぶ		74.0	67.8	-6.2
	ダイヤグラムから数値を読み取る		77.7	70.7	-7.0
	神経系の働きについての知識を身につけている(感覚)		57.2	69.1	11.9
	オームの法則を使って、抵抗の値を求める		51.9	44.1	-7.8

これらの実態に加えて、全ての問題を通して、「書く」問題の正答率が、国、郡とも低く、国語のB問題は、「書く」問題の正解値が10%台、算数でも20%台と低い問題があり、「選んで書く」「まとめて書く」など、考えた事をことばとして書くという学習を大切にしなければならない。国語B問題には、「かみかみあえ」のよさをPRするために、かみかみあえの紹介文、かみかみあえのおいしさや効果を示して、食べる事をすすめる文、保健室の先生がよく噛むときの効果の話の3つの文を理解して解答する問題があるが、国語、算数・数学、理科ともに、幾つもの文や資料をもとに解答する問題が出題されていて、関連つける、総合して考える、考えた事をことばや文で表すなど考える力の育成が求められている。

## 5 調査全体から

(1) 幾つかの項目で改善が図られている。

児童生徒のよさをほめる努力、家庭学習を含めて学力を向上させる指導、授業のめあてやまとめを丁寧にしてノートに記録させる指導などの成果が表れている。課題としてきたことについて、学校をあげての取組が成果となっている。

(2) クロス集計(児童生徒質問紙の回答と学力検査の分析)から

児童生徒質問紙と学力検査の相関を調べるクロス集計をみると、

- ・将来の夢をもっていないという生徒
- ・毎日決めた時間に寝ていないという生徒
- ・数学の授業がわからないという生徒
- ・家の人と学校のできごとを全く話さないという生徒

これらの実数が二十数名いることがわかります。しかも、これらを選択した生徒の学力検査の結果が最大20ポイント低いという結果が出ています。家庭での生活の仕方について、共に考える機会を設けていただけたらありがたいです。

(3) 二学期制導入の願いを再度確認する必要がある。

### 児童生徒

\*児童生徒に寄り添う時間を増やし、願いを聞き、努力に寄り添い、できることをつくり、その努力を認め、自らの意志をもち協働して学習や活動に取り組めるようにする。

### 教職員

\*自分の指導に責任をもつようにし、指導を通して同僚と学び合い、資質能力の向上を図る。  
\*一人一人の成長を認め、それをよさとして自分の個性と自覚できるまで丁寧な指導や助言が必要です。

### ご家庭で

\*小学校6年生、中学校3年生が検査の対象です。児童生徒が自己肯定感(自分のよさや個性等が学校や家庭で認められ、それぞれで達成感、所属感、存在感を味わうことができ、自分の意思で目標をもち、主体的に生活しようとする姿)を誰もが味わうことができるようにしたいものです。

羽島郡の児童生徒のために二学期制として、5年目を迎えています。更にすべての小中学校をコミュニティ・スクールとして、地域と共に次代の羽島郡を担う若者を育てることに挑戦しています。一層、学校・家庭・地域が連携して、子どもに活動を通して願いを語り、協働することを一層推進したいと考えています。